

OCHADAI GAZETTE

お茶の水女子大学学报 第219号 2009年3月23日

OCHADAI GAZETTE Spring, 2009



つたえられる想い、つながる伝統 女性リーダー育成のための新たな取り組み

CONTENTS

TOPICS

- | | |
|---|--|
| 学長メッセージ 1
贈る言葉 | 教員紹介 7
岩壁茂先生
(大学院人間文化創成科学研究科人間科学系) |
| 世界へ発信するお茶の水女子大学 3
国際フォーラム in Bangkok | キャンパス点描 9
楊逸氏公開講演会
徽音祭「凛～今日は祭食研日～」
茶室披きを記念しての扁額除幕式・記念講演会
母校でもう一度学びませんか |
| 女性リーダー育成プログラム 4
公開講座「リーダーシップ論」 | |
| 女性研究者の活躍促進 5
シンポジウム
「日本の女性がノーベル賞を受賞する日」 | |



お茶の水女子大学
Ochanomizu University

学長メッセージ



ご卒業、ご修了
おめでとうございます。



贈る言葉

お茶の水女子大学の学部を卒業するみなさん、大学院研究科を修了するみなさん、おめでとうございます。それぞれ学士、修士、博士の学位を取得される晴れやかな門出に当たり、お祝いの言葉と私からのメッセージを贈ります。みなさんが今日手にされる学位記は本学の学生としてみなさんが倦まず弛まず勉学に励んだことの証です。同時に、みなさんを育て或いは支えてくださった保護者や、みなさんの教育を担当した多くの教員たちの努力の結果でもあります。このように世の中に、ひとが一人の力で成し遂げられる事はほとんど存在しないのです。お茶の水女子大学を巣立ちゆくみなさん、これからの活躍をおおいに期待します。今、世界は非常に速い変化を遂げています。知識基盤社会をめざす日本で、女性への期待は高まっています。すでに学んだことでは不足する事態が生じたとき、母校のお茶大はみなさんをいつでも温かく迎えます。このことをよく覚えてください。

平成 21 年 3 月 23 日
お茶の水女子大学長 郷 通子

世界へ発信するお茶の水女子大学

国際フォーラム in Bangkok



第1回 国際フォーラム in Bangkok 「日本ーアジアの『知』の融和」を開催

2008年11月21日、22日、タイのバンコクにおいて「日本ーアジアの『知』の融和」をテーマに国際フォーラムを開催しました。

21日は、郷通子学長による基調講演に始まり、パネルディスカッション「アジアの知と日本の知の融合～アジアは日本に何を期待するか・日本はアジアから何を学ぶか～」では、第1部「学術研究の視点から」、第2部「産業界における人材育成の視点から」、第3部「日本語・日本文化の視点から」と3部構成で進められました。

第1部では、池島耕 JSPS バンコク研究連絡センター長より、「タイでは応用科学への期待が高く、その重要課題としてタイの豊かな生物資源の利用があり、タイに本当に必要な知識や技術を知るためには、日本人研究者がタイに来て、共に学ぶ姿勢が重要である」との指摘があり、第2部の Toray International Thailand Ltd. の Narong Lertkitsiri 会長からは、「日本の大学へ留学し、外国人採用数が若干枠である時期にも関わらず、日本企業に就職するも、日本企業文化の中で悩むこともあった。しかし、『一生懸命』の気持ちを大切に、日本人と仕事をする、自分の仕事を作り出すことを考え、仕事の成功も手に入れた。タイの若手社員にも『一生懸命』の気持ちを期待したい。」とありました。

第3部では、国際交流基金吉川竹二東南アジア総局長より、「タイにおいて日本語は文化的憧憬の対象としての側



面がある。そのことが日本留学や訪日研究の動機となった時に、タイは日本に何を求め、日本に何を提供できるのか。まちづくり、経済や教育機会の格差克服、環境問題対策、高齢社会への対応、アート、地域協力などのテーマにおいて共に学びあえる可能性がある」ことを指摘をいただき、また、本学卒業生で翻訳家である Bhusdee Navavichit さんからは、「窓際のトットちゃん」タイ語翻訳の経緯の紹介がありました。

翌22日は、本学とタイの同分野の研究者の間で相互に研究紹介を行い、優秀な大学院生を定期的に交換できる確固としたパイプを作る等、日タイ間の同分野における国際連携の構築を議論するとともに、本学及びタイ及び周辺国の研究者とアジアと日本の連携・協力による、「今」そして「これから」必要とされる新たな日本語・日本文化・日本事情教育の方向性を探る議論が行われました。

女性リーダー育成プログラム

公開講座「リーダーシップ論」

本学が取り組む女性リーダー育成プログラムの一環として、2009年1月10日、2月28日に、公開講座「リーダーシップ論」連続講演会を開催いたしました。

第一回は、小林陽太郎氏（富士ゼロックス株式会社相談役最高顧問）を講師としてお迎えし、「私の考えるリーダーシップ」と題してお話をいただきました。米国のジョセフ・ウィルソン氏と日本の緒方貞子氏を具体的な理想的リーダーとしてあげられ、お二人に共通するものとして「人間力」と「内省」を指摘され、内面によってリーダーたることの意義をお話になりました。そして、自らの豊かなご経験に基づいて、リーダーの条件として、人をひきつける人間的な魅力、豊かな教養に裏付けられた判断力、自分らしくあること（自分のスタイルを持つこと）をあげられた後、最重要の資質は謙虚であることだと述べられました。すなわち、寛容でオープンマインドであることによって人の意見を容れることができ、それはひいては創造性をもたらすところのご指摘は、参会者全員の胸に深く染み入りました。



講演会第二回には、池田守男氏（株式会社資生堂相談役、東洋英和女学院理事長・院長）を講師としてお迎えし、「社会におけるサーバントリーダーシップ」と題してお話をいただきました。女性を主な顧客とする資生堂という企業におけるご自分の体験をふまえながら、男女共同参画社会のあるべき姿として、女性はもちろん、高齢者も学生も、すべての人々による全員参画社会を掲げられ、そのなかで求められる新しいリーダー像として「サーバントリーダーシップ」を提示されました。格差の拡大とグローバル化による多様な価値観の交錯する現代社会にあつて、従来のようなトップダウン式のハードパワー型リーダーではもはや十分ではなく、社会や他者に奉仕し尽くすこと、すなわち人間的な温かさの帰結として多くの人を率いていく、そのような「サーバントリーダーシップ」こそが真のリーダーシップであると述べられました。日常生活につながるものとしての「サーバントリーダーシップ」という概念は、参加者に深い印象を与え、自身を顧みる大きな契機を与えられました。

ともに当日は、一般の方からも多くの参会者を数え、500名をこえる人々が参加しました。また司会は本学の大学院博士前期課程の学生が務め、質疑応答では本学学部学生が積極的に発言するなど、「リーダーシップ論」の講演会にふさわしいものとなりました。

女性研究者の活躍促進

シンポジウム「日本の女性がノーベル賞を受賞する日」



お茶の水女子大学では、学長のリーダーシップのもと、優れた女性研究者を養成するさまざまな取り組みをおこなっていますが、平成18年度から20年度には、文部科学省科学技術振興調整費による女性研究者支援モデル育成プログラム「女性研究者に適合した雇用環境モデルの構築」事業を実施してまいりました。プログラムの推進もいよいよ大詰めを迎えた今、これまでの成果報告と今後に向けた女性研究者支援の方向性を世の中に発信する場として、「日本の女性がノーベル賞を受賞する日ー女性研究者養成システム改革の加速へー」と題したシンポジウムを、2009年2月14日、本学徽音堂にて開催しました。

当日は、突然の春の到来を感じさせるような暖かなバレンタインデーの午後。200名を越える方々が日本全国よりわざわざ足を運んでくださいました。

シンポジウムでは、郷通子学長挨拶の後、来賓として泉紳一郎文部科学省科学技術・学術政策局長から、文部科学省の研究者支援の取り組みについてのご来賓挨拶がありました。若手研究者支援の一つとしてお茶の水女子大学が行なっている日本学術振興会若手研究者インターナショナル・トレーニング・プログラム（若手ITP）が紹介され、このような本学の取り組みが、将来日本の女性がノーベル賞を受賞する日につながることを期待していると述べられました。

続いて、宮尾正樹お茶の水女子大学女性支援室長より、3年間の女性研究者支援モデル育成事業の成果として、DVD上映のほか、女性が働きやすい環境構築のための指標「お茶大インデックス」及び「女性研究者支援ワークブック」の提案について報告がなされました。



引き続き、産学官各界から3名の方々（板東久美子 内閣府男女共同参画局長、國井秀子 IEEE JC Women in Engineering, Chair リコーソフトウェア㈱取締役会長、黒田玲子 ICSU 副会長 東京大学大学院教授）をお招きしての講演を、また上川陽子 元内閣府特命担当大臣（少子化対策・男女共同参画）をお招きして、郷通子学長との「大臣が語るノーベル賞」と題した対談が行なわれました。なお、野田聖子 内閣府特命担当大臣（科学技術政策・食品安全） 消費者行政推進担当大臣 宇宙開発担当大臣および小淵優子 内閣府特命担当大臣（少子化対策・男女共同参画）からはビデオメッセージが届けられ、紹介されました。

最後に、今後更なる取り組みを推進していくために「女性研究者養成システム改革の加速へ」と題したパネルディスカッションが、板東久美子、國井秀子、黒田玲子、郷通子の4氏によって行われ、研究者支援の必要性、研究環境の整備など、更なる女性研究者養成システム改革を加速していくことの必要性が熱く論じられました。

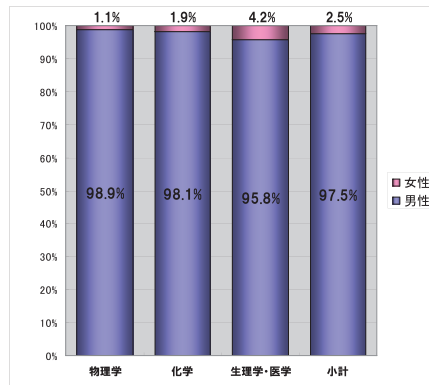
このシンポジウムを通して、国立の女子大学として、また創設以来多くの偉大な女性科学者を輩出してきた先駆者として、本学の今後の研究者支援の取り組みに内外から大きな期待が寄せられていることが再認識されました。

女性のノーベル賞受賞者数（男女比）

自然科学部門

(単位:名)

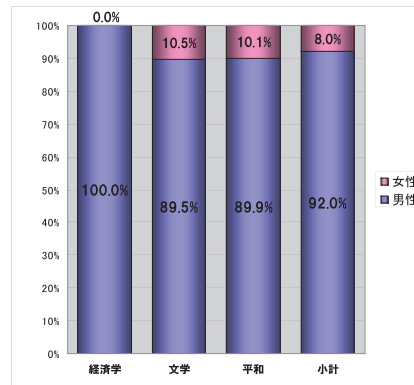
	物理学	化学	生理学・医学	小計
男性	182	151	184	517
	98.9%	98.1%	95.8%	97.5%
女性	2	3	8	13
	1.1%	1.9%	4.2%	2.5%
全体数	184	154	192	530



自然科学部門 以外

(単位:名)

	経済学	文学	平和	小計
男性	62	94	107	263
	100.0%	89.5%	89.9%	92.0%
女性	0	11	12	23
	0.0%	10.5%	10.1%	8.0%
全体数	62	105	119	286



2009.2.14 シンポジウム「日本の女性がノーベル賞を受賞する日ー女性研究者養成システムの加速へー」

女性のノーベル賞受賞者数（国別）

自然科学部門

(単位:名)

国籍	物理学	化学	生理学・医学	小計
アメリカ	1	0	= 5.5	6.5
フランス	1	2	1	3
イギリス	0	1	0	1
ドイツ	0	0	1	1
イタリア	0	0	= 0.5	0.5
日本	0	0	0	0
合計	2	3	8	12



注)アメリカとイタリアで研究生活を送っていたため

2009.2.14 シンポジウム「日本の女性がノーベル賞を受賞する日ー女性研究者養成システムの加速へー」

自然科学部門 以外

(単位:名)

国籍	経済学	文学	平和	小計
アメリカ	0	2	3	5
フランス	0	0	0	0
イギリス	0	0	2	2
ドイツ	0	0	0	0
イタリア	0	1	0	1
スウェーデン	0	2	1	3
ノルウェー	0	1	0	1
ポーランド	0	1	0	1
オーストリア	0	1	1	2
南アフリカ共和国	0	1	0	1
ケニア	0	0	1	1
オスマン帝国(マケドニア)	0	0	1	1
グアテマラ	0	0	1	1
チリ	0	1	0	1
ビルマ(ミャンマー)	0	0	1	1
ベルシャ(イラン)	0	1	1	2
日本	0	0	0	0
合計	0	11	12	23

女性研究者の活躍促進

シンポジウム「日本の女性がノーベル賞を受賞する日」

教員紹介

学派を超えた新たな心理療法の研究

第5回目の教員紹介では、人間文化創成科学研究科人間科学系准教授の岩壁茂先生にお話を伺います。岩壁先生は、大学院では人間発達科学専攻、また、学部では生活科学部人間生活学科・発達臨床心理学講座のご所属で、臨床心理学をご専門とされています。今回は、先生のご専門にあわせて、最近のご著書もご紹介いただきました。



Shigeru Iwakabe

岩壁 茂

一見他者に向けられているようなことが、
人との気持ちをつなげ、自分のためになります。
人との関わりを深めることは、お互いを高めることになるので、
ぜひ大切にしてほしいですね。

先生のご専門について
お聞かせください。

臨床心理学が専門で、特に、心理療法について研究しています。カウンセリングを通して、人はどのように変わるのか、人が変わるプロセスに興味を持っています。

先生がおっしゃる「変わる」
というのは、何を指して
いらっしゃるのですか。

もちろん、行動面や専門的な基準に照らして変化があるかということも重要ですが、1番大きな部分は本人の感じ方です。カウンセリングを

求めるのも「主観的に」気分が優れないからです。そこで、自分であること、今の時間を十分に体験でき、様々な感情を体験し、「自分の感覚」を取り戻すことです。このようなクライアントのプロセスを感情の変化として研究しています。

心理療法にはいくつもの種類があると思うのですが、先生はどの心理療法がご専門なのですか。

心理療法のアプローチは400種類以上あるといわれています。私は学派を超えてより効果的なアプローチを目指す統合的アプローチをとります。



現在もカウンセリングを実践されていますか。

本学大学院（発達臨床心理学コース）は、臨床心理士（※1）の養成の第1種指定校になっているため、学内に大学院生の実地訓練の場として「心理臨床相談センター（※2）」を設置しています。私はそこで、学生のスーパーバイザーをやっていますが、自分自身でも、クライアント

を受け持って実際にカウンセリングをしています。

※1 臨床心理士：財団法人「日本臨床心理資格認定協会」の出す資格であり、本学人間文化創成科学研究科人間発達科学専攻発達臨床心理学コースを修了すると、臨床心理士の受験資格が得られる。

※2 心理臨床相談センター：一般の方を対象に、主にお茶の水女子大学院人間文化創成科学研究科発達臨床心理学コースの教員が運営委員となり、その監督の下で大学院生が相談を行っている相談室。

詳細は、

<http://www.develop.ocha.ac.jp/soudan.html>

お茶大生にメッセージをお願いします。

産業におけるメンタルヘルスをテーマに、早期離職の要因も研究しているのですが、人との関わりが大切であることを実感しています。高校や大学のはじめでは、机に向かって一人で自分の能力を高めるのが勉強の中心にあります。しかし、大学から社会にかけて徐々に人との関係の中で自分の力を出していくことが、大切になってくると思います。その中で優しさや思いやりなど、一見他者に向けられているようなこと

が、人との気持ちをつなげ、自分のためになります。人との関わりを深めることは、お互いを高めることになるので、ぜひ大切にしてほしいですね。



インタビューを終えて

さすが、カウンセラー。お忙しい中、終始優しい口調でお話くださいました。先生は心理療法研究において精力的にご研究をされており、たくさんの論文、ご著書を発表されています。最近では、「心理療法・失敗例の臨床研究—その予防と治療関係の立て直し方—」、「プロセス研究の方法（臨床心理学研究法 第2巻）（臨床心理学研究法）」を執筆されています（下記参照）。

聞き手 赤松 利恵

（人間文化創成科学研究科
自然・応用科学系 准教授）



「心理療法・失敗例の臨床研究—その予防と治療関係の立て直し方—」（金剛出版）
心理療法の失敗について、事例を交えて失敗要因を解説するだけでなく、失敗を予防するための指針もまとめられている。臨床心理の実践家や養成に携わる教育研究者の必読書として紹介されている（写真左）。

「プロセス研究の方法（臨床心理学研究法第2巻）」（新曜社）

カウンセリングにおけるクライアントが変わっていく過程を研究するプロセス研究の手引きとなる書。最近注目を浴びているプロセス研究を学びたい方におすすめしたい（写真右）。

教員紹介

学派を超えた新たな心理療法の研究

キャンパス点描

楊逸氏公開講演会「お茶大で学び新聞記者から文筆職人への道」



第139回芥川賞を受賞された本学出身の作家・楊逸氏を講師にお迎えし、2009年1月31日、「お茶大で学び新聞記者から文筆職人への道」と題する公開講演会が開催されました。楊逸氏は、1995年に本学文教育学部地理学科（当時）を卒業され、その後、中国語新聞の記者や中国語の講師として勤め、初めて日本語で書いた小説『ワンちゃん』で第105回文学界新人賞、さらに『時が滲む朝』で芥川賞の受賞となりました。中国人女性作家としては史上初の受賞です。

講演会当日は、午前中の嵐が嘘のように、楊逸氏の朗らかなお人柄をあらわすような好天とともにお話が始まりました。本学の地理学科で毎日有意義にかつ楽しく過ごされたことを生き生きと述べられ、とくに地理学科の実習の一つである「巡検」の体験によって、日本という国、それも東京ではない別の場所の存在を実感として知ることができ、現在、小説を書く際にも無意識のうちに影響を与えられている、と話されました。また、幼い頃の「下放」のご体験についても、いくつかの印象深いエピソードとともに語られ、日本人参加者の想像だに及ばぬ楊逸氏の深い思いに、参加者の全員が深い感銘を受けました。

午前中の悪天候にもかかわらず、300名をこえる参加者が集い、講演会終了後には、ご著書へのサインを求める人の列が長く続きました。





2008年11月8日、9日の2日間にわたって徽音祭が開催されました。59回目にあたる今年度のテーマは「凛 ～今日は祭食研日～」で、構内は様々なイベントや模擬店などによる盛り上がりを見せ、2日間で14,000人以上の来場者におこしいただきました。

茶室披きを記念しての扁額除幕式・記念講演会



2008年11月8日、茶室（庵号「芳香庵」）披きを記念した、扁額除幕式及び記念講演会が開催されました。記念講演会では、利休居士第15代鵬雲斎千玄室大宗匠による『茶の文化の心』と題した講演が行われ、「茶」を通じた人々との交流や、人の「心」のあり方など、非常に興味深いお話を伺うことができました。



母校でもう一度学びませんか

—科目等履修生、聴講生を受講される本学卒業生の方は入学料無料—

お茶の水女子大学では現役の社会人はじめ、家庭に入った方、もう一度ブラッシュアップして再就職を考えている方、さらに知識や専門性を高めたい方など、母校で再び学ぶ意欲のある本学卒業生・修了生の応援をいたします。

本制度の内容

対象者	本学卒業生（本学学部から本学大学院博士前期課程に飛び入学した者を含む）、及び修了生（大学院博士後期課程の単位修得退学者を含む）
内容	科目等履修生、聴講生を対象に入学料を無料

詳しい内容につきましては大学HPをご覧ください。

<http://www.ocha.ac.jp/topics/h210203.html>



お茶の水女子大学学报 第 219 号

▽発行日：2009 年 3 月 23 日

▽発行：国立大学法人お茶の水女子大学

東京都文京区大塚 2-1-1 (〒112-8610)

ご意見・ご感想はこちらまで

学術・情報機構広報チーム

電話 03-5978-5105

FAX 03-5978-5545

E-mail : info@cc.ocha.ac.jp

URL : <http://www.ocha.ac.jp/>